

令和7年度

北九州飛幡中学校

スクールプラン 学校評価アンケート結果

令和8年3月

令和7年度 飛幡中学校 スクールプラン

学校教育
目標

人間尊重の精神のもと、教師と生徒、生徒相互の信頼
関係を築き、心身共に健康で心豊かな生徒の育成

子ども
の学び
に関するこ
と

子ども
の体力
に関するこ
と

子ども
の心の
育ちに関
すること

小中一
貫教育
に関するこ
と

長欠・
不登校
に関するこ
と

子どもの**学び**に関すること

目標：「自らがよく考え、判断し、自主的に学ぶ生徒の育成」

- 「生徒にとって、分かりやすい」授業を目指し、生徒が主体的に学ぶ環境づくりを行い、生徒一人一人が自分に合う適切な家庭学習に繋げる。
- 教員が相互に互見授業で授業改善

成果

- 「授業中に学習したことを、課題解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいると思う。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値80%を若干下回ったものの、非常に高い数値。**
- 12月に教員が相互に互見授業ができる期間を設定し、実施した。

先生方も生徒により分かりやすい授業づくりを目指して取り組んでいます。



子どもの**学び**に関すること

目標：「自らがよく考え、判断し、自主的に学ぶ生徒の育成」

- 「生徒にとって、分かりやすい」授業を目指し、生徒が主体的に学ぶ環境づくりを行い、生徒一人一人が自分に合う適切な家庭学習につなげる。
- 教員が相互に互見授業で授業改善



課題

- 「1日1時間以上の家庭学習に取り組んでいる。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値70%を大きく下回った。**
- 「個別最適化の学び」に向けて、ICT機器やドリルアプリの活用方法について研究が必要。
- 変わりゆく時代に沿った「学びの形」を探求していく必要性。具体的には、オンライン授業の有効活用など。



子どもの**体力**に関すること

目標：「運動の機会を増やし、心身共に健やかな生徒の育成」

- 学習資料や視聴覚教材を活用し、基本的技能の習得を図る。
- 保健分野において、運動の必要性について理解させる。
- 体育理論を通して、運動への興味・関心を高める。



成果

- 「運動やスポーツを観たり、行ったりすることが好き。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値80%を若干下回ったものの、非常に高い数値。**
- 「体育の授業は楽しい。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値80%を大きく上回った。**



子どもの**体力**に関すること

目標：「運動の機会を増やし、心身共に健やかな生徒の育成」

- 学習資料や視聴覚教材を活用し、基本的技能の習得を図る。
- 保健分野において、運動の必要性について理解させる。
- 体育理論を通して、運動への興味・関心を高める。



課題

- 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(中学2年生が実施対象)より「学校の保健体育の授業時間以外でも運動やスポーツを行っている」について、1週間で60分以上実施の割合は、男子**80%**、女子**71%**。
- 令和7年度本校部活動入部率は、**80%**。
(内、運動部**58%**、文化部**22%**)



子どもの心の育ちに関すること

目標：「豊かな心を育み、認め高め合う生徒集団の育成」

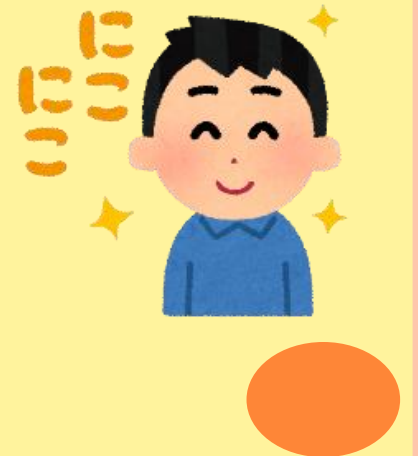
- 生徒の良い部分や可能性を認め、個性を伸ばす教育活動を行う。
- 自主性、リーダーシップ、人間関係調整力を育む。
- 道徳教育の充実

学校行事に対して、一生懸命に取り組む生徒がほとんどで、やりがいや充実を感じる生徒が増えました。



成果

- 「自分にはよいところがある。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値80%を達成**。
- 「先生は自分のよいところを認めてくれている。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値85%を大きく上回った**。



子どもの心の育ちに関すること

目標：「豊かな心を育み、認め高め合う生徒集団の育成」

- 生徒の良い部分や可能性を認め、個性を伸ばす教育活動を行う。
- 自主性、リーダーシップ、人間関係調整力を育む。
- 道徳教育の充実



- SDGsの取組を総合的な学習に取り入れ、現在の社会問題や環境問題について興味をもって調べ、学習の「視野を広げる」活動につなげていく工夫を考える。
- 地域の企業や大学と連携した「探究活動」の活性化。
(昨年度は、中2年で「夢授業」を実施。
今年度は、中2年で「北九州ゆめみらいワーク2025」へ参加。)

課題



小中一貫教育に関すること

目標：「小中一貫した教育課程の実施を目指す」

- 5月の平日に体育大会を実施した。(2年目の取組)



成果

- 校区のあやめが丘小6年生と天籟寺小6年生、そして戸畑中央小6年生の児童たちが担任を中心に引率のもと、中学校の体育大会を見学することができた。

プレゼン資料などの写真で伝えるより、中学生の真剣さや迫力など実感することができていたようだ。



小中一貫教育に関すること

目標：「小中一貫した教育課程の実施を目指す」

- 小中連携会議、校区いじめ防止サミット会議により
①啓発ポスター作り ②合同地域清掃活動 ③合同あいさつ運動
を実施することとなった。



成果

- 啓発ポスターは、小学生及び中学生の代表児童・生徒が作成し、作成したポスターをコピーし、それぞれの学校に掲示して啓発活動につなげることができた。
- 地域清掃活動においては、中学1・2年生と小学生との交流活動を通して、校区にある公園の清掃を行えた。
- 合同あいさつ運動においては、実施期間を決め、生徒会の中学生が出身校の小学校へ行って、代表児童と一緒にあいさつ運動を実施した(あやめが丘小、天籟寺小、戸畑中央小で実施)。

小中一貫教育に関すること

目標：「小中一貫した教育課程の実施を目指す」

- 校区の小学6年生を対象に中学校の授業参観を計画。
- 新入生説明会(オンデマンド)を実施。
- 小6年生対象に出前授業の実施(3月に「音楽」と「技術」で実施予定)。



成果

- 1月に校区の小学6年生を対象に中学校1・2年生の授業参観を行った。小学校よりもより専門的な学習を受けている中学生の様子を見学でき、小学生にとっては、中学生になる心構えを持たせる機会になったと考えられる。
- 2月に予定されていた「新入生説明会」は、オンデマンド形式での案内となった。
- 「小中連携の取組を通して、充実した活動に繋がっている。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値85%を大きく上回った。**
- 「小中連携の取組を通して、中1ギャップの改善に繋がっている。」について、**肯定的な回答をした職員の割合は、目標値85を下回った。**

長欠・不登校に関すること

目標：「誰もが安心して学習できる学校、学校が好きな子どもの育成」

- 生活アンケートや教育相談の充実と問題の早期発見。
- SCやSSW等、外部との連携及び、チーム学校として組織的な対応。
- 関係機関や職員全体での定期的な情報共有や計画的な家庭訪問の実践。



成果

- 毎月1回の生活アンケートの実施及び、学期に1回の教育相談を実施し、問題の早期発見に努めることができた。
- ステップアップルームを設置し、段階を踏んで、家庭から学校(ステップアップルームの活用)。そこから教室へつなげていった。
- 「毎日楽しく安心して学校に通っている。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、**目標値90%を上回った。**